



外川 善正 議員

録画配信はこちら

最近の業務運営について

Q 信頼と絆を取り戻す業務運営とは

A 一人ひとりの意識の向上と組織としての防止体制

本事業は、接種を希望される方が、機会を失うことなく接種していただけるよう利用件数により本事業の有益性を判断しているものではない。また、特別な移動手段を必要とされる方などを対象に民生委員さんのご協力をいただきながら送迎の支援を進めて

答 (町長) 送迎を一度利用された方のなかには接種後の体調の変化や副作用を心配され、次の回からは、ご家族や近所の方が付き添われる状況も見受けられた。

問 新型コロナワクチン接種時の移動支援について
答 移動支援を行った実績が令和3年度では26件で令和4年度では1件となっているが、75歳以上の高齢者の方だけでも250人弱おられ、3回の接種を考えると(延べ750人)と余りにも利用者が少なく、この移動サービスがほとんどに良かったら2回目も3回目も受けられると思うが、1件にまで留まることは行政としてどのように受け止めているか尋ねる。

新型コロナワクチン接種時の移動支援について



ワクチン接種会場の公民館

いたが、ひとり暮らしの方や車やバイクなどの交通手段がない方に幅広く利用いただいている。

多発する業務ミスについて

問 ここ数年業務ミスの発生が目につく。その内容のほとんどが、同じチェック漏れや確認漏れなど人為的なものが多く見受けられる。業務の流れを各段階でどのように指導を行っているのか尋ねる。

答 (副町長) ミスの原因としては、そのほとんどが人的に生じたヒューマンエラーによるもので、認知誤り、慣れ等による不注意、知識や経験の不足、不十分な連絡や報告、心身などの要因により起きていますと把握している。

問 行政への問い合わせや要望等について

以前口頭で問い合わせをお願いしたが、なか

答 (町長) 町に対する問い合わせや要望については各担当においてその内容を整理・共有し速やかに回答するようにしている。

なか返答がなかったことから再度文書で問い合わせを実施した。それにも関わらず1年近く経っても、回答がないことから、行政全体としてはどのような体制でもって業務の運営を推進されておられるのか尋ねる。



河村 善一 議員

録画配信はこちら

県道湖東愛知川線の歩道整備について

Q 歩行者の安全のために、歩道設置は必要と考えるが

A 早期の歩道設置が実現できるよう取り組む

問 県道及び町道の整備状況と歩道設置について
答 (建設・下水道課長) 町内を通る国道は、国道8号および307号で、その延長は6.7kmである。県道の延長は33.4kmである。

問 現在、沓掛地先からの県道湖東愛知川線は、道幅が狭いにもかかわらず、大型のトラック・ダンプ・バスが通り、対向車は反対側に寄せて一時停止するか、広い場所をさがして待機し、対向車が通るのを待つしかない。そのため、歩行者にとっては大変危険な場所となっております。

問 令和2年度に2回、県と町からの説明があったが、令和3年度は何の動きもなく、説明もなかった。もっと積極的に地元足を運び、地元の役員、地権者に理解を得るように取り組むべきと考えるがどうか。

答 (教育長) 県道湖東愛知川線の沓掛地先の一部区間においては、道路幅が狭く、大型トラックなどの離合がスムーズに出来ない区間が見受けられる。さらに、小学生の通学路にもなっており、路肩にグリーンベルトを設置し、ドライバーに注意喚起を図っているが、歩行者にとって安全と言える状況ではない。

問 新愛知川の法面の木の伐採と草の除去について

答 (建設・下水道課長) 児童の安全安心を確保するため、地元自治会や隣接地権者のご協力やご支援が必要であり、早期の歩道設置が実現できるよう、今後も県として情報共有や連携を図り、取り組んでいく。



新幹線側の大木

問 最近、全国的に雨が降りを及ぼして、日本中どこで起こってもおかしくない状態である。

答 (建設・下水道課長) ①新愛知川は一級河川で、滋賀県が所有者で、管理責任者である。②現在の新愛知川の状況は、市地先の県道湖東愛知川線の交差点から、宇曾川に向かう下流において、新幹線側の法面から雑木や雑草が繁茂し、流れを阻害するような箇所が多数見受けられる。

①新愛知川は誰が管理責任者か。
②新愛知川の樹木と草の適正管理を行なって、風水害被害が起こらないようにしてもらいたい。